

平成30年度京都市民健康づくり推進会議 摘録

1 開催日時

平成31年3月26日（火）午後1時30分～午後3時30分

2 開催場所

御所西 京都平安ホテル1階「平安の間」

3 出席者

京都大学大学院医学研究科 教授	中山 健夫
市民委員	三原 康雄
市民委員	森 晃
京都市地域女性連合会	加藤 アイ
京都市PTA連絡協議会	辻 真一
京都市保健協議会連合会	沼田 幸夫
（公社）京都市保育園連盟	嶋本 弘文
（公社）京都市私立幼稚園協会	末廣 敬邦
京都府私立中学高等学校連合会	室 保次
京都大学 環境安全保健機構 健康管理部門 健康科学センター	石見 拓
京都労働局労働基準部	藤本 修一
（一財）京都工場保健会	井上 崇
（独法）労働者健康安全機構 京都産業保健総合支援センター	為井 克昌
（一社）京都府医師会	小柳津 治樹
（一社）京都府歯科医師会	岸本 知弘
（一社）京都府薬剤師会	原田 克也
（公社）京都府栄養士会	熊谷 幸江
（公社）京都府歯科衛生士会	白波瀬 由香里
（一財）京都予防医学センター	家田 健司
京都府国民健康保険団体連合会	山村 一美
健康保険組合連合会京都連合会	柏木 裕之
全国健康保険協会京都支部	山手 亮輔
京都市保健所	松村 貴代
京都市衛生環境研究所	斉藤 泰樹
京都市健康増進センター	辻本 成秀

事務局	健康長寿のまち・京都推進担当局長	別府 正広
	京都市保健所長（医務担当局長）	山田 典子
	健康長寿のまち・京都推進室長	北川 博巳
	保健担当部長	中条 桂子
	健康長寿企画課長	塩山 晃弘

4 摘録

【開会の挨拶】健康長寿のまち・京都推進担当局長

【ご紹介】市民公募委員の就任について（2名）

【報告】①平成30年度の取組状況及び平成31年度の取組予定について（以下、議事進行は議長）

事務局から資料5に基づき説明。

○ 京都大学健康科学センター

禁煙対策を大学として推進したいと考えている。学校は基本的に完全禁煙だと思っているが、敷地内で喫煙場所を作っているといわれている。また、大学によって検討状況が異なる。大学の対応状況を行政から発信いただきたい。

○ 議長

資料5-2 P11のN0208「将来予想される保健医療データ等のビッグデータの活用も含め、民間や大学の活力を活用した健康づくり」について、イベントとしての健康づくりもあるが、意味のあるものなのか、問題がどうなのかは、基本的には数字が大事であり、京都市でも取り組んでいただきたいと考えている。

【報告】②各構成団体の取組（以下、議事進行は議長）

○ 京都市保健協議会連合会

戦後、衛生状況が非常に劣悪であり、そのような中、保健協議会が組織され、衛生面の向上に取り組んできた。現在では各行政区で健康づくりにも取り組んでいる。例えば、中京区では、毎年秋にふれあい祭りを開催しており、健康づくりサポーターと保健協議会が一体となって来場者の健康チェックを行っている。また、昨年度から「京からはんなり健康長寿フォーラム」を開催し、昨年度は2回であったが、今年度は3回開催した。このほか、他の行政区の保健協議会と連携した取組も実施している。

○ 私立中学高等学校連合会

禁煙の取組を継続して進めている。とりわけ受動喫煙について、取り組む必要を感じている。

○ 京都大学健康科学センター

従来通り健康診断等実施し、次年度は禁煙に向けて取り組みたいと考えている。

また、昨年度から、ヘルシーキャンパス活動を開始し、大学から健康づくりの情報を発信している。発足時には総長から宣言いただき、京大が掲げる「WINDOWS構想」にも追記され、今年度は、学生によるヘルシーキャンパスプロモーターが誕生した。さらに、ヘルシーキャンパス京都ネットワークを立ち上げ、現在市内8大学が参加しており、今年度11月に実施したウォーキングチャレンジには、市内7大学が参加した。そして、12月にはヘルシーキャンパスプロモーターが中心となってヘルシーキャンパスフォーラムを開催した。ヘルシーキャンパス京都ネットワークには、他の大学や大学以外の方にも参加いただきたいと考えている。

また、今年度立ち上げた京大エクスプロモーションライブラリーは、診療所において、学生等が気軽に健康について触れることができるフリースペースで、まもなく稼働する予定である。

このほか、大学生の歯の健康の取組についてネットワークを使って広げていきたいと考えている。

○ 京都労働局労働基準部

職場の受動喫煙防止対策に対する企業への助成や、毎年9月に実施している職場の健康診断への指導、全国衛生労働週間における労働衛生管理の推進などに取り組んだ。

また、今年度を働き方改革の初年度として、過重労働対策、有給休暇を推奨するような取組などを実施した。働き方改革の取組をあらゆる機会をとらえて周知していきたいと考えている。

○ 京都府医師会

健康日本21対策委員会において、関係諸団体の取組のもと、市民の健康づくり支援として疾病予防や介護予防などの啓発活動に協力している。その取組の1つに、くらしと健康展があり、年1回開催している。近年、疾病構造が変わってきており、今後は介護予防などに重点をおき、実施内容を検討する予定である。

また、例年開催している健康講座については、今回は災害医療をテーマにする予定である。

このほか、目の愛護デー、目の相談の日、耳の日など開催している

○ 京都府歯科医師会

禁煙について、賛否両論あったが、京都府歯科医師会館にあったタバコの灰皿を撤去した。次年度施行される全面禁煙については、診療所も対応していかないといけない。歯科医院を経営・運営している歯科医師に対して行政からも指導してほしい。

歯科について、ちゃんと咀嚼できているか等機能評価の取組を進めている。今年度は、京都市において後期高齢者の健診事業を実施いただいた。本取組は、府内で先行して実施している市町村があるが、京都市の取組を参考に、更に推進を図ろうとする動きもある。とても有難い事例であり、市に対しても感謝申し上げたい。

また、虫歯は減ってきていると言われるが、高齢者の方等がスポーツ飲料等でカロリーを摂取する際に、水に溶け込んだ砂糖により、虫歯になってしまうケースがある。世界的には砂糖が入った飲料は害であるとして、ソーダ税もある。行政には、このような事例に対し、課題意識を持って取り組んでほしい。

その他糖尿病重症化予防の取組も大事である。いろんな分野と連携を図りながら、引き続き関わっていきたい。

また、行政としても、症状に気づく前の予防的な取組を実施いただきたい。

○ 国保連

府内26市町村11国保組合の共同体で作られた組織であり、市民に向けて直接健康づくり事業はしておらず、保険外の支援の中で取組を実施している。健康危機ということで骨密度、血管の年齢測定機器等を貸し出しており、京都市の市民すこやかフェアでもブース出展をしている。

また、地区ごとに連絡協議会があり、宇治・城陽・久御山町で協議会を設けており、その3保険者が共同で健康づくり事業として、元気フロンティア教室を開催し、連合会としては共催として財政的支援やマンパワーの協力をしている。

さらに、各被保険者や住民が参加するそれぞれの保険者の健康づくり事業においてウォーキングタオルを配布しており、29年度は1万4千ほどのタオルを配布した。

○ 健保組合

27 健保が所属している連合会で統一的に実施している保健事業において、東福寺で座禅体験を実施し約100名の参加、親と子の水泳教室を京都踏水会の御協力の下実施し約60名の参加、また、健康ウォークでバスを出し、伊勢で8kmほどのウォーキングを実施し100名以上の参加があった。さらに、生活習慣病の改善として調理実習を実施した。

企業健保は健康経営ということで、各健保の保健事業がかなり充実してきており、特に京都は健康銘柄という各業種1社しか選べない企業もしくはそれに準ずる企業を各業種で1社から2社3社まで選ぶ健保銘柄に京都から3社が認定された。ワコールは4年連続、新たに堀場製作所、村田製作所ということで、全部で37企業のうち3企業が京都からということで、健保の活動ではなく会社の活動担う。そういう意味では企業全体の中で健康改善活動がかなり広がってきている。健康経営のゴールラインは企業を卒業された方でもそれぞれヘルスリテラシーを上げることで、企業卒業後も、自分自身で自分の健康を改善・維持するノウハウを付けていただくことが健康経営のゴールラインになる。健康銘柄以外のその下の優良企業500に多くの京都の企業が選ばれている。共通保健事業以外にも各健保が、会社が、従業員の健康増進に向けて実施している保健事業の充実が進んでいると言える。

また、京都駅南側ワコロールのビル、1階が文化講座とか学びの場となっている。東京では丸の内保健室、地域で、仕事をされる方の健康を改善する活動があり、京都保健室ということで、ワコールとコンテンツを作っている企業と一緒に、昨年春、京都市、京都府にも共催いただき、健康機器を扱っている島津製作所、京都工場保健会にも御協力いただき、土日で500名、働く女性の方が500円ワンコインで、ヘモグロビン、骨密度を測り、健康診断が高いことが判明するとともに、得られたデータにより作成した京都女子白書から、東京、名古屋といった各地域で働く女性と京都で働く女性の何が違うかということ、果物の摂取率はどの地域も不足しているようであったが、京都は100%不足しているという結果であった。睡眠についても、他の地域より熟睡度が低い。これはコーヒー摂取量日本一が影響しているのかもしれない。また、昼食は、きっちりとする人と抜く方の両局に位置する。また、白書のリリースに参加された京都伊勢丹が、食品売り場でフルーツを増やされた。地域で住まわれている方、働いている方の健康改善をしていきたいという思いで、皆様に御賛同いただきはじめた取組である。こういう活動が広がれば、企業だけでなく地域に貢献できる活動になると思っている。

○ 協会けんぽ

協会けんぽの健診事業は、生活習慣病予防健診、特定健康診査とあるが、それぞれ被保険者・被扶養者の違いで名称が異なる。対象は、被保険者約33万人、35歳以上の被保険者の方を対象としてがん検診を含めた総合的な健診を実施している。平成30年度の実績は、受診率50%となっており、全都道府県の協会けんぽの中で13位と若干上位である。

一方、特定健康診査の扶養者の受診率は、15%となっており、全国34位である。

また、特定保健指導は、伸び悩んでおり、11%、全国40位である。31年度はこれを解消すべく、生活習慣病予防健診、いわゆる勤務をされている方の健診について、健診当日に保健指導を受けていただくよう、ワンストップヘルスケアとして事業を行っていく予定。扶養家族の方については、引き続き、自己負担を無料でできる健診、市町村と連携した集団健診、いろんな健康器具を使ったオプションを付けた健診により、集客を図りたいと考えている。

また、健康づくり講座については、事業所を訪問し職場の健康づくりの講座を、委託により実施している。メンタルヘルス、生活習慣病、食事・栄養の3カテゴリー合計9種類あり、事

業所からの申込により講師を派遣している。

重症化予防については、健診結果で要治療判定の方で受診していない方を対象に、受診勧奨を実施している。

「京から取り組む健康事業所宣言」は、事業所単位で健康経営を進めていこうということで、協会けんぽで実施している。宣言すれば終わりではなく、協会けんぽでいろんなサポートを実施し、会社にあった独自の健康事業を実施いただき、従業員の健康増進に努めていただいている。今後も、事例集を集め、事業所間での共有をしていく。

(質疑応答等)

○ 市民委員（三原）

いろんな取組を伝える方法が少なく感じる。

○ 市民委員（森）

全ては無理だと思うが、数字の根拠や進捗率を追加すれば、よりわかりやすいと思う。

【議題】市民の健康づくりに関する目標の設定、リーフレットの作成等について

事務局から資料7に基づき説明。

○ 京都府医師会

「楽しく動く」において、父親が20年後も安心という表現が適切でないと思う。

○ 京都大学健康科学センター

運動の部会でも意見を。もっとしつこく京都をアピールしていいのではないか。例えば、通勤で京都を歩くなど。なるべく全世代がコマの中に入ってくるように。例えば、食に大学生が食堂で食べるなど。

また、字が小さいことに対して、アイデアとして例えばかかわると楽しむを1つにするほか、いきいきアワードで活用する、学校教育にも組み合わせるなど、工夫ができると思う。

○ 京都府歯科医師会

しっかりやすむ、からだを守るについては、京都らしさをもう少し入れたほうがいいと思う。休むは休憩も含むと思う。

○ 京都市地域女性連合会

女性会でも周知していきたいと思う。絵は大きくしていただきたい。

○ 公益社団法人京都府栄養士会

高齢者の方のほうが健康の意識が高いと思うので、できるだけ絵や字を大きくしたほうがいいと思う。

○ 一般社団法人京都府薬剤師会

配布物を見てほしい方に見ていただくための工夫が必要である。健康に無関心な層にも届けることが大事だと思う。配布先について工夫いただきたいと思う。

(閉会)